

愛知医科大学消化管内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	新規の生物学的製剤及び分子標的薬で治療した炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）症例を対象とした多施設後ろ向き研究
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 藤原祥裕
担当科等	消化管内科
研究責任者	（職名）教授（特任） （氏名）佐々木誠人
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学（溝下 勤）
研究の意義・目的	新規薬剤（ゴリムマブ、ウステキヌマブ、トファシチニブ、ベドリズマブ）の治療効果を臨床的に検討します。得られた知見を今後の炎症性腸疾患の方の診療に役立てたいと考えております。
対象となる患者さん	2002年5月から2019年11月までに新規薬剤（ゴリムマブ、ウステキヌマブ、トファシチニブ、ベドリズマブ）の治療を受けたことのある炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の患者さん。
研究の方法	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の方の診療情報を用いた臨床的検討および消化管内視鏡検査時に採取した生検病理検体を用いた病理学的検討を行います。生検病理検体にて免疫組織化学的な手法を用いて種々のマーカーの発現状況を検索し、臨床症状や内視鏡所見と対比させて比較検討します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2025年12月31日
研究に用いる試料・情報	情報：炎症性腸疾患の病型、治療内容、血液データ（炎症データ値） 等
外部への試料・情報の提供	当院で収集され匿名化された情報は、名古屋市立大学の研究事務局に紙媒体で郵送し、同事務局でまとめて解析します。
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部内科学講座（消化管内科）

	担当者：(職名) 助教 (氏名) 山口純治 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線) 23480
--	--